

1年1組 国語科学習指導案

日時 平成24年11月1日(木)1校時
場所 1年1組教室(1階)

1 単元名 くらべて よもう

2 教材名 じどう車くらべ

3 指導の立場

(1) 教材観

本単元は、『C 読むこと』領域の「内容イ…時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」と「内容エ…文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」と「内容カ…楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」また、『B 書くこと』領域の「内容イ…自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「内容ウ…語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」と「内容オ…書いた物を読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。」を身に付ける学習である。特に『B 書くこと』領域と絡めて『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』領域の「内容(1)イの(エ)…長音、拗音、撥音などの表記(片仮名で)ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと。イの(オ)…句読点の打ち方や、かぎ(「 」)の使い方を理解して文章の中で使うこと。内容(1)ウの(ア)…平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。」を習得できるようにする。これらの内容は、『C 読むこと』では、「言語活動例ウ…事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」『B 書くこと』では、「言語活動例ウ…身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。」を通して指導する。

本教材は、児童の興味関心の高い乗り物の中で、特に身近な自動車を取り上げている。多くの役割をもつ自動車がそれぞれの「仕事(はたらき)」のために、どのような「つくり(形態)」になっているのかを同じ文章構成『「しごと」+接続詞「そのために」+「つくり1」+「つくり2」』で、4種類の自動車(バス・乗用車、トラック、クレーン車)を列挙して紹介している説明文である。

本単元の出口を自分だけの「じどう車ずかん」作りとする。そのためにまず、4種類の自動車の「しごと」と「つくり」を順に読み取り、本文を視写して自動車のカード作りをする。その後、全員で「はしご車」の絵を手がかりにして、「しごと」と「つくり」を考え、説明する文をどう書くとよいか学ぶ。さらに、絵本や図鑑を読んで、書きたい自動車の「しごと」と「つくり」について自分で説明文を書き、独自のカードを作る。そして、完成した各自の「ずかん」を交換して読み合い感想を交流することとした。こうした学習を行う中で、観点を意識して大事なことを読み取る力、自分の伝えたいことが分かるように、学習した「文章構成のモデル」を意識して簡単な説明的文章を書く力をつけられるように指導したい。

(2) 児童の実態

『読むこと』については、1年上の「くちばし」で、問いかけと答えが三回繰り返されている文章(列挙型説明文)を、「みいつけた」では、「問い-答え-答え-答え」で説明されている文章(列挙型説明文)を読み、それらの文章構成を学んだ。『書くこと』については、1年上の「すきなものなあに」で、好きのものとその理由を二文で書く学習をした。「かけるようになった」では、したことを三文程度で書き表す学習をした。

作者の最初の問いかけに答えて観点をもって読み取っていく学習には慣れてきており、本教材の「しごと」と「つくり」を見つけ出すことは大半の児童ができると思う。全員が必ず自分の考えをもてるように、教科書の「しごと」と「つくり」の記述されている部分に鉛筆でサイドラインを引かせたり、ペアで答えを交流したりする場をもつ。また、今までは、部分視写であったが、本単元では、最後に自分で説明的文章を書くことができるように、全文視写を行う。助詞の「は」「を」「へ」や促音がまだ正しく使えない児童もいる中で、困難を感じる児童は少なくない。どの児童も、正しく視写できるように指導を工夫したい。

児童は身近な車には興味があり、単元が始まる前から楽しみにしている様子が伺える。身近な体験を生かしつつ、楽しく本文や絵本図鑑を読み、それぞれの願いを大切にしていこうと図鑑づくりに取り組ませたい。

(3) 指導観...研究テーマに関わって

言語活動の充実を図った単元指導計画のあり方

指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画の工夫・改善

1学期は、読みの視点を表す「大事な言葉」を視写して内容を読み取り、2学期は、前単元で、読みの視点を表す「大事な文」を視写して、内容と共に説明文の文章構成とその書き方を学んだ。本単元は、単元を貫く読みの視点に沿って「大事な文」を意識しながら、全文を視写し、内容を読み取って説明する文章を書く。3学期の「どうぶつの赤ちゃん」では、読みの視点に沿ってさらに詳しく長い説明文を書く。

ねらいや目的に応じた言語活動の充実(単元指導計画)

第3次で自分の好きな自動車の図鑑を作るため、第1次で見通しをもち、第2次で読みの視点に沿った文の読み取り方や、文型、文末表現、文章構成等を学ぶ。

つきたい力を明確にした「習得・活用のリサイクル」を生み出す単元構成

第2次では、読みの視点に沿って大事な言葉や文章を意識しながら本文を全文視写し、内容を読み取る。視写を繰り返すことで説明文の構造や文末表現を習得させる。そして、第3次の説明文作りでは、最初に「しごと」を確認した後、関連する「つくり」を、写真や挿絵、本文から、「みつけたよカード」に書き出し、次に「下書きカード」で文章構成順に資料を並べ、最後に「清書カード」に作文用紙の形式に従って説明文を書くという段階的にステップを踏んで書き方を学ばせる。読みから作文へ一貫して、挿絵読み 仕事の確認 仕事と関連した作り探し 確かめ・確認(ペア・全体交流) クイズ形式による目当ての振り返りの順で授業をパターン化し、最終的に自分で資料を探し説明文が書けるようにしていく。

学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

願いや見通しをもつ場、交流して学び合う場、学習を振り返る場の設定及び工夫

毎時間、クイズ形式で振り返りの場をもつ。振り返りの項目は、第1次は、学習の見通しと作者の問いかけ(読みの視点)が分かることであるが、2次、3次は、「1...仕事分かる。2...作りが分かる。3...仕事に対する作りのよさを理解する。」の3項目が入るようにする。

ねらいに迫る学び合いを生み出す指導・援助の工夫

- ・言葉や文の意味を理解し、楽しく読ませるために

大きな挿絵を見て、授業の導入でいろいろな発見をさせたり、内容を読み取るとき振り返ったり、授業後段の作りのよさを考えるとき再度見たりして本文と挿絵を絶えずタイアップさせる。

言葉や文にかかっていることを、全体で、または、代表で動作させる。

- ・説明的文章が書かれた本に親しませるために

学級に「のりものの本コーナー」を設け、乗り物の本に親しませる。(図書館、

地域の図書館、児童・教師が持ち寄った本など)

- ・自分で説明的文章が書けるために

書き抜きのワークシートではなく、最初から、作文用紙で全文視写させる。その際、句読点の打ち方、助詞の使い方、1ます空けの書きだしなど、作文の書き方の基本を指導していく。

1時間本文の読み取りをし、文章の構成を確認した後で、次の1時間で丁寧に全文視写することで、説明文の意味を理解しつつ、その文型を書いて覚えることができるようにする。

協同的に学び合う学習集団育成のあり方

ペア交流の位置付け

ペアで交流することで、自分の考えをもち、自分の読み取りや作文が正しいかを確認かめる。特に、読み取りの場面では、ペアでクイズを出し合って視点の確認をする。その際、真正面に向き合い、相手の目を見て、自分の考えや思いを「伝えたい」という気持ちではっきり話す等、対話の基本を教える。

全体交流の充実

モデルペアやモデル児童に発表させ、学習内容を確認したり、表現のよさに気づかせたり、自分の推敲の参考にさせたりする。

授業後段で、読み取ったことをもとに、乗り物のつくりのよさを交流し、自分の図鑑の絵のページに生かすようにする。

4 単元指導目標

知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、文章の中の大事な言葉や文を書き抜くことができる。

読(1)イ・エ・カ

事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、句読点を使ってつながりのある文を書くことができる。

書(1)イ・ウ・オ

- ・片仮名で、長音、拗音、促音を表記することができる。

伝国(1)イ(イ)(オ)・ウ(ア)

5 単元指導計画

次	時	ねらい	学習活動	指導援助・評価規準
1	1	自動車図鑑を作る見通しをもつことができる。	<ul style="list-style-type: none"> どんな自動車があるか話し合う。 教師の範読を聞き、分かったこと等を発表する。 自動車図鑑を作る見通しをもつ。 作者の問いかけを確かめ、読みの視点をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 話題提示の場面の挿絵を提示する。 「くちばし」「みいつけた」の作者の問いを思い起こさせる。 図鑑のモデル文提示。乗り物に関心をもち、図鑑作りに意欲をもっている。「関」
2	2	バスや乗用車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵から分かることを話し合う。 「しごと」と「つくり」のところに、サイドラインを引く。 「しごと」と「つくり」を「そのために」でつないだ文章構成に気付く。 大事な言葉から、「つくり」のよさに気付く。 クイズで学習の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を提示し、「つくり」への意識を図る。 文末表現、接続詞の意味などから、仕事と作りや、文章構成に気付かせる。 座席の広さ、窓の多さの利点を考えさせる。叙述をもとに、バスや乗用車の仕事と作りを正しく読み取っている。「読」(1)イ
	3	バスや乗用車の文章を視写し、余白に絵やコメントをかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> バスや乗用車の「しごと」と「つくり」と、「そのために、」の使い方を意識しながら、全文を視写し画用紙に貼る。 余白に絵を描き、「つくり」のよさ(秘密)や分かったことのコメントを書く。 できたカードを掲示し、それぞれの表現のよさを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文、原稿用紙の拡大版を黒板に貼り、教師が一緒に書く。 できた児童、書くことが困難な児童に視写の手本文を渡す。仕事や作り、文章構成を意識しながら、正しく視写ができる。「読」(1)ウ
	4	トラックの「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵から分かることを話し合う。 トラックの「しごと」と「つくり」が書かれているところに、サイドラインを引く。 大事な言葉から、「つくり」のよさに気付く。 クイズで学習の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵を提示し、「つくり」への意識を図る。 荷台の広さ、タイヤの多さの利点を考えさせる。叙述をもとに、トラックの仕事と作りを正しく読み取っている。「読」(1)イ
	5	トラックの文章を視写し、余白に絵やコメントをかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> トラックの「しごと」と「つくり」と、「そのために、」の使い方を意識しながら、全文を視写し画用紙に貼る。 余白に絵を描き、「つくり」のよさ(秘密)や分かったことのコメントを書く。 できたカードを掲示し、それぞれの表現のよさを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文、原稿用紙の拡大版を黒板に貼り、教師が一緒に書く。 できた児童、書くことが困難な児童に視写の手本文を渡す。仕事や作り、文章構成を意識しながら、正しく視写ができる。「読」(1)ウ

6 本 時	クレーン車の「しごと」と「つくり」を読み取ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵から分かることを話し合う。 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」が書かれているところに、サイドラインを引く。 ・大事な言葉から、「つくり」のよさに気付く。 ・クイズで学習の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示し、「つくり」への意識を図る。 ・「じょうぶなうでがのびたりうごいたりする」「しっかしたあしがついてる」利点を考えさせる。叙述をもとに、クレーン車の仕事と作りを正しく読み取っている。 <p>「読」(1)イ</p>
7	クレーン車の文章を視写し、余白に絵やコメントをかくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・クレーン車の「しごと」と「つくり」と、「そのために、」の使い方を意識しながら、全文を視写し画用紙に貼る。 ・余白に絵を描き、「つくり」のよさ(秘密)や分かったことのコメントを書く。 ・できたカードを掲示し、それぞれの表現のよさを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本文、原稿用紙の拡大版を黒板に貼り、教師と一緒に書く。 ・できた児童、書くことが困難な児童に視写の手本文を渡す。仕事や作り、文章構成を意識しながら、正しく視写ができる。 <p>「読」(1)ウ</p>
8	はしご車の「しごと」と「つくり」を皆で考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵から分かることを話し合う。 ・はしご車の「しごと」を話し合い、皆で文を考える。 ・挿絵から「しごと」に対する「つくり」を見付け、皆で文を考える。 ・仕事に対するながいはしご、じょうぶなあし、バスケット、操作台等の「つくり」のよさに気付く。 ・黒板の文章をもとに説明文の「しごと」と「つくり」を書き、清書用に並べ、文章構成を考える。 ・できた児童同士で交流する。 ・代表ペアが発表する。 ・クイズで学習の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示し、「つくり」への意識を図る。 ・話し合った内容を児童の言葉を使って教師が文にまとめていく。 ・「長いはしごが伸びたり、動いたりする」「じょうぶなあしがある」「バスケットや操作台がある」等の利点に気付かせる。 ・個別に支援する。仕事と作りを分けて書いている。 <p>「書」(1)イ</p>
9	はしご車の文章を書き、余白に絵を描くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・はしご車の下書き構成カードを清書し、画用紙に貼る。 ・余白に絵を描き、「つくり」のよさ(秘密)や分かったことのコメントを書く。 ・できたカードを掲示し、それぞれの表現のよさを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文や文章構成図などを黒板に貼り、説明文の書き方を確かめる。 ・書くことが困難な児童には、手本文を書く。仕事と作りを「そのために」でつないで書いている。 <p>「書」(1)ウ</p>

3	読休 書み 夕時 イ間 ム	絵本や図鑑を読み、 書きたい自動車を選ぶ ことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「じどう車コーナー」の本や図鑑を自由に読む。 ・自分の書きたい自動車のページに自分の名前の付箋を貼る。(一人二枚。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級文庫に「自動車コーナー」を準備し、自由に読めるようにする。自分の自動車図鑑に載せるカードを書くために、絵本や図鑑を読み、書きたい自動車を決めている。「読」(1)カ
	10	書きたい自動車の「しごと」と「つくり」の文を本や図鑑から、書き抜いたり、想像して書いたりすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな自動車の絵本や図鑑のコピーの、「しごと」の部分は、赤で囲み、「つくり」の部分は青で囲む。はっきりしない場合は、考えて文を作る。 ・同じ自動車グループのペアで、「しごと」と「つくり」が囲んであるか確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が選んだ本の自動車を紹介されているページをコピーして、配付する。 ・同じ自動車ごとに集まって書かせる。 ・仕事や作りが明快でないものは、支援する。自分の好きな自動車の仕事と作りが書いてあるところを見付けたり、文を考えたりしている。「読」(1)エ「書」(1)イ
	11	自分が好きな自動車の「しごと」と「つくり」を本から、抜き出し、説明文の構成を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が書きたい自動車を確かめる。 ・説明文の文章構成や原稿用紙の書き方を確かめる。 ・下書きを書く。 ・読み返したら、できた児童同士がペアで交流する。 ・代表ペアが発表する。 ・クイズで学習の確かめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が選んだ乗り物の写真や絵を掲示する。 ・今までのモデル文や文章構成図を掲示する。 ・下書き用の原稿用紙を用意する。自分が好きな自動車の「しごと」と「つくり」を本から、抜き出し、説明文の構成を考えることができる。「書」(1)ウ
	12	自分の好きな自動車の説明文の下書きを清書し、絵を描き、コメントを書くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな自動車の下書き構成カードを清書し、画用紙に貼る。 ・余白に絵を描き、「つくり」のよさ(秘密)や分かったことのコメントを書く。 ・できたカードを掲示し、それぞれの表現のよさを交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル文や文章構成図などを黒板に貼り、説明文の書き方を確かめる。 ・書くことが困難な児童には、手本文を書く。仕事と作りを「そのために」でつないで書いている。「書」(1)ウ
	13	完成した図鑑を友達と交換して読み合い、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した図鑑を班で読み合う。 ・カードに感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想カードを用意する。 ・「初めて知ったこと」「いいなと思ったこと」「自分と同じだな」等感想の視点を与える。書いた物を読み、良いところを見付けて感想を伝えることができる。「書」(1)オ

6 本時のねらい

本文や挿絵からクレーン車の仕事と作りを正しく読み取ることができる。

7 本時の展開 (6 / 13)

	学習活動	指導・援助・評価
つかむ	1 挿絵を見て，気付いたことを発表する。 ・クレーン車だ。 ・長い腕が付いているよ。 2 本時の課題を確認する。 課題：クレーン車の「しごと」と「つくり」をよみとり，ひみつをみつけよう。	<ul style="list-style-type: none"> 比べて読むために，前回学習したトラックの挿絵と文を提示しておく。 教科書の挿絵を提示する。
考える	3 クレーン車の説明の部分を音読する。 4 教科書の「仕事」が書かれている部分」に線を引き，ペアで確認した後，その内容を全体で交流する。 ・おもいものをつりあげるしごとをしています。 5 線を引いた部分を囲む。 ・仕事...赤鉛筆 6 教科書の「作り」が書かれている部分」に線を引き，ペアで確認した後，その内容を全体で交流する。 ・じょうぶなうでが，のびたりうごいたりするようにつくってあります。 ・車たいががたむかないように，しっかりしたあしが付いています。 7 線を引いた部分を囲む。 ・作り...青鉛筆	<ul style="list-style-type: none"> 一斉音読をすることで，本時の学習場面を確認させる。 「～というしごとをしています。」という文末表現を確認する。 「重い物をつり上げる」様子について，半具体物を使ったり，動作化をしたりして，体験的に理解させる。 要支援児には，あらかじめ本文に色鉛筆で印を付けて線を引かせる。 「～つくってあります。」等の文末表現を確認する。 「丈夫な腕」や「しっかりした足」が付いている理由，「伸びたり動いたり」する様子について，半具体物を使ったり，動作化をしたりして，体験的に理解させることで，仕事に対する作りのよさに気づくようにする。 要支援児には，あらかじめ本文に色鉛筆で印を付けて線を引かせる。
深める	8 ペアで「しごと」と「つくり」について，問題を出して，答え合う。(「しつもんタイム」) <「しつもんタイム」での対話例> Aさん：乗り物の名前は何ですか。 Bさん：クレーン車です。 Aさん：どんな仕事をしていますか。 Bさん：重い物をつり上げる仕事をしています。 Aさん：そのために，どんな作りになっていますか。 Bさん：丈夫な腕が伸びたり動いたりするように作ってあります。車体が傾かないように，しっかりとした足が付いています。 Aさん：その作りだと，どんないいことがありますか。 Bさん：重い物を簡単に持ち上げて動かせます。重い物をつり上げて倒れません。(例)	<ul style="list-style-type: none"> 「しつもんタイム」の最初に，教科書を見ながら答えても良いことを確認する。聞き手も，教科書を見ながら聞き，間違いがあったら相手に教える。 「しつもんタイム」での質問の文は，教室側面に掲示し，いつでも確認できるようにする。 自分たちの話した内容と比べながら聞くように助言する。
まとめる	9 代表ペアが発表し，全員で内容を確認する。 10 クレーン車の説明の部分を音読する。 11 自己評価をする。 12 次時の学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 叙述をもとに，クレーン車の仕事と作りを正しく読み取っている。「読」(1)イ 学習内容を振り返りながら音読する。 評価は，挙手で確認する。